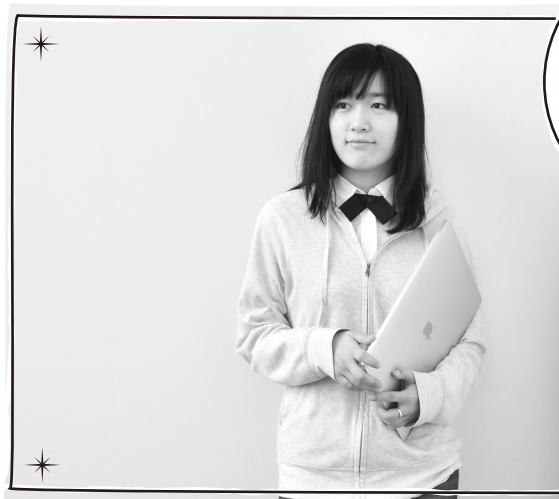




＊ 第44回 ＊

李 石映雪

リクルート住まいカンパニー

楽しいことを 自由にやるだけの話

まえがき

理系分野で活躍する女性として、理工系学部在籍女子学生の方々へメッセージを、と原稿執筆のお話いただいたから、光栄に思いつつも、正直なところ、果たして自分はそんな大層な主語で語れるほど活躍しているのかと頭を悩ませていました。わたしは生物も社会科学も専門外で、性別に置いて学術的な事実も論理も持ち合わせていない、いわば素人です。そんなわたしが女性ならではの女性特有という内容について書かせていただくよりも、占い本を読んだ方が、参考になるのではとしたりしました。ですので、あくまで一人の人間がそういう風に考え、そういう風を選択したと読んでいただきたいと思いますし、もしそれで少しでも参考になれたら幸いです。

学生時代

高校2年生からいわゆる理系特進クラスに属し、その後北京大学の電子情報学部に入り、2年生からは計算知能科学と(Computational Intelligence Science)という学科に入ったので、一般的にはリケジョと呼ばれると思います。

恥ずかしい話ですが、小さい頃から真面目さとも大人しさとも無縁で、学生の義務さえこなせば、常に自分のやりたいことを優先していいと思って自由に生きて来ました。PCで遊ぶこと

が好きで、ゲームを作りたいと思ったり、SFの世界に魅力を感じてロボットやAIに興味を持ったりするような子供でした。なので、自然とそれらに近いと感じた計算機科学をやりたいと思うようになりました。

ネット上にはそういった趣味関連で知り合った友達が多いので、お互いに性別について知らない以上、余分なバイアスがかかることもなく好きなことについて語り合うことができました。もちろん、peer pressureや無理解はありました。「きみは〇〇だからこうであるべきだ」とステレオタイプな主張をする人もいれば、「〇〇だからもう△△(好きなこと)しない方がいいよ」と善意を振りかざして宥める人もいました。ただ私にとってはそういった方のアドバイスが専門的もしくは論理的に正しく聞こえた試しはなく、聞き入れようという気にも到底なれなかったです。もしかしたら偏見の少ない世界を体験したことがないのかな、なんて可哀想な人達だ、と上から目線なのですが彼らの世界がもっと広がるように心から願っていました。

そんな可愛げのない青少年だったので、大学に入ったからといって変わることもなく、コンピューターサイエンスの授業を受け、プログラミングしたり情報理論について学んだり、大学三年生からデータマイニングの研究室に入ってから、論文を書いたり海外の学会に投稿したりもしていました。情報系は難しくて面白いことがいっぱいあります。解析証明の授業も、データ

構造とアルゴリズムの授業も、情報理論の授業も、やればやるほど、知っていることが増えているはずなのに、それ以上に知らないことが増えて、学びたいことも増えていきました。つらくて楽しい日々でした。

そんな経歴ですが、純粋な理系だね、と言われると、それはどうだろうと思うこともあります。初心者もいいところですが、文学も歴史も好きですし、音楽も美術も機会あれば齧りたいと思っています。コミュニケーションは得意な方ではありませんが、語学も好きです。経済や金融は中二病をこじらせてやや敬遠気味だったが、最近は食わず嫌いもどうかと思い始めたので、時間さえあれば触れてみたいという気持ちが増えました。

世界に面白いと思うことがたくさんあります。当たり前のことですが、文系だからだとか、理系だからだとか、男性だからだとか、女性だからだとか、子供だからだとか、大人だからだとか、リケジョだからだとか、レッテルを貼って自分の行動を制限しなくても良いのではないのでしょうか。やりたいことを、楽しいと思うことをやればいいです。その自由はきっと許されています。

社会人として

2013年10月に大学を卒業して、グローバル採用のWeb総合職種としてリクルートに新卒入社しました。わたしの配属された部署はRSCのデータマーケティンググループでした。不動産ポータルサイトSUUMOの掲載物件や

†株式会社リクルート住まいカンパニー

"Born This Way" by Shiyongxue Li (Recruit Sumai Company Ltd., Tokyo)





アプリでの施策紹介

アクセスログなどのデータを活用し、UX改善、マーケティング施策により効果増図ったり、新たなサービスを作ることが主な仕事でした。

その後ずっとSUUMOのデータ分析や開発に携わっているわけですが、リコメンドシステムを作ったり、情報検索系のアルゴリズムでアイテム一覧の並び順を改善したり、時には画像や自然言語の解析もしたり、それだけではなく、エンジニアリングチームの一員としてAPIを開発したり、隙を見て論文を書いて日本国内や海外の学会に投稿したり、「面白い！意味ありそう！やりたい！」と思うことにできるだけ手を出して、新しいことをたくさんやってきました。いわゆる「データサイエンティスト」という職業なのですが、情報系出身としてはエンジニアリングもやっていますし、最近ではシステム規模が大きくなったので、インフラやSREも大変興味深く思っています。今後も必要に応じて、視野を広げてできる仕事を増やして行きたいと考えています。

個人差や部署差がありますが、手を上げれば割となんでもやらせてもらえ

る、柔軟な社風のおかげで、新人時代からいっぱいわがまま言って、自分のやりたいことをたくさんやらせていただきました。周りの優秀な方々から刺激を受けて、自分からも沢山発信して、最終的にユーザにとって良いプロダクトを作っていくことができる環境だと思っています。あくまで私の経験ですが、プロダクトを作り上げて行く過程の中で、性別が理由で制限された、女性だからできなかったという思いをしたことはなかったです。女性だからこそできた、と思ったこともありませんが、わたしだからこそできたと思えるように、仕事に向き合ってきました。

誤解を恐れずに言うと、仕事は大変だと思います。入社までは不動産についてまったくわかりませんでしたし、プログラミングやアルゴリズムなど典型的な理系の仕事だけでなく、幅広く学ばないといけませんでした。業務知識が増えた後も、できることが多い環境の分、やりたいことも増えていき、その結果、なんだかんだ言ってやることは多いです。それなりに仕事のコツがわかったと思ったら今度は後輩や部下ができて、それまでの課題とは性質



グループのメンバでピザ食べながらライトニングトーク

の違う難しさにまた頭を抱えて解決方法を考えないといけませんでした。新しい機会、新しいチャレンジがあふれた環境の中、飽きる暇もなく次から次へとやりたいことが湧いてきます。楽しくなってしまうと遅くまで残業してしまうこともあります。もっと体力があればいいと思うこともあります。だからといって、それは性別による超えられない壁かと聞かれれば、自分というケースに限っては、そんなことよりもちゃんとジムでも行って基礎体力でもあげたほうがいいじゃないかな、と思っています。決して、IT業界・データ分析・ソフトウェア開発・STEMは女性でもこなして当たり前な仕事だと押し付けたい訳ではありません。むしろその逆で、得意な分野や志向によっては合わない人も多いと思います。だからこそ、性別という雑な二元論ではなく、自分の性質と照らし合わせて決めたほうが良いと思います。もしデータと触れて楽しい、プログラミングをして物を作りたいと感じているのであれば、性別を過剰に意識する必要はないと思います。

キャリアの話になると、結婚や出産が良く話題にあがると聞きます。キャリアが家庭の都合で中断してしまうので、女性の採用に関しては不安感が強いという人もいます。一般論になってしまいましたが、日本女性の平均

結婚年齢は29歳を超えている(2015年・厚生労働省統計情報部)と言われています。22～24歳で就職した女性の多くは5～7年以上働いているはずで。

時代のトレンドを見ても、性別とは無関係に、5年以上も同じ職場に留まらないことも多くなっていくと思います。ですので、漠然とした不安で採用の選択を狭めるくらいなら、5～7年の期間で、採用するコストに見合う価値を出せるように、採用する側とされる側が協力しあったほうが正しいと思います。現在の職場では産休育休や支援制度が整備されているので、マネージャを含め、女性は当然として、男性もそういった制度を積極的に利用し、家庭と仕事の両立ができている人も増えてきたと感じています。

両立はきっと簡単なことではありません。やりたいことをやる自由なんて、大抵の人間にとってはとても難しいことです。だからこそ得られる達成感もあるでしょう。

話を戻しますと、わたし個人に関しては、機械学習アプリケーションのグループでテックリードをやっています。わたし達のチームはアルゴリズムやアプリケーション開発が好きな人を募集していますので、性別にかかわらず、興味がありましたらぜひご連絡いただければと思います。

余談ですが、情報系だったので学生時代には日本語はまったくわかりませんでした。内定を貰うまでひらがなも分からなかった私ですが、うっかり面接で「英語が得意なので日本語も学べばいけると思います!」と大口を叩いてしまいまして、一所懸命に勉強していました。その甲斐もあって今こうして執筆することができていますので、まったくやったことないけど行ける気がするデータ分析を始めたい方がい



学会でリコメンドについての発表

たら、ぜひ挑戦していただきたいと思っています。

大切にしているもの

レッテルから持たれた期待値がなんであれ、私は私でしかいられないので、そんな自分だからこそできることを大切にしたいと思っています。

理系を学んだ女性ではあるかもしれませんが、代表できる訳でもなければ、それだけで簡潔に表現できるほど単純な個体でもありません。

そもそもレッテルやステレオタイプとは、性別、人種から出身大学など、複雑で表現しきれないものを抽象化して単純化することだと考えています。それを使うのは必ずしも悪ではないです。事前知識を符号や概念に落とすことはコミュニケーションにおいても効率的かも知れません。ただその抽象化は正しいとは限らないことを忘れてはいけません。手に入るデータは常にノイズ塗れで、バイアスがあります。仮に正しい抽象化ができたとしても、それはすべての個体に当てはまると思えません。正規分布から抽出されたサンプルに対して「おまえはこの分布か

ら来たくせになぜ平均値ではないんだ」と問い詰める人がいたら、分散の概念も学んだほうがきっといいでしょう。

レッテルで表現する・されるのはある意味楽だと思いますが、他人を一人の人間としてしっかり向き合えるような人間になりたいと思いますし、そういう風に周りにも接してもらいたいと思います。

むすび

いろいろと伝えたいことがあります。結局なところ、理系分野は面白いことが多いから興味を持った人はぜひやってみましょう、という単純な話に尽きます。アルゴリズムが面白い、ものづくりが面白い、技術を駆使してプロダクトを世に出すことが面白い、世界を変えるのが面白い、だから少しでもやってみようと思ったならやりましょう。苦労しない道なんてそうそうないので、自分を二分割してABテストもできない以上、やらないで後悔するくらいならやってから後悔するのも選択の一つです。

(2019年3月4日受付)